

牛久：学校周辺に見る自然

第31号 牛久二小

2012年10月1日発行

＜夏の終わりの動物たち ③トンボの仲間＞

牛久二小4年2組との「夏の終わりの生き物」観察。今回はトンボの仲間しょうがいを紹介しましょう。



秋が近づき、全身まっ赤になってきた、ナツアカネのオス。翅(はね)の先のもようと胸の黒い線で、他と見分けられる。

体全体に赤みを帯びたトンボが、小枝にとまりました。よく見かける赤とんぼの見分けについては、22年度44号などでお話してきましたが、翅(はね)の先にやや大きな黒褐色こっかつしよくのもようがあるか？、胸のもようは？といったところに注目して、だいたい見分けることができます。この赤とんぼは、翅の先は小さな黒褐色こっかつしよくの点のようで、胸のまん中の黒い線(第一黒条)が途中ですばっと切れているので**ナツアカネ**。オスは成熟せいじゅくすると、顔も含め全身が真っ赤っかになります。写真はオスのようですね。



こちらは、何度も登場している**ノシメトンボ**。翅(はね)の先にやや大きめの黒褐色のもようがあり、胸のまん中の黒い線(第一黒条)は背中までとどいています。この辺では、長い期間にわたって一番よく見かける赤とんぼの仲間ではないでしょうか？オスは成熟せいじゅくすると、赤みを帯びたこげ茶色になります。

翅(はね)の先が黒褐色のノシメトンボ。



翅(はね)の先が黒褐色で、胸のまん中の黒い線(第一黒条)が背中に届きそうで届かないリスアカネ。

おや、今度はアキアカネ?とと思ってよく見ると、翅の先にノシメトンボのような黒褐色のもようがあります。胸の真ん中の黒い線(第一黒条)も、そのどちらともちよっとちがいます。あとで図鑑で調べましたら、どうやらリスアカネのようです。たぶん、こういう機会がなかったら、気がつかずに見過ごしていたでしょう。観察の授業は、私自身にとっても勉強になります。



集団で群れ飛んでいたウスバキトンボ。南からやってきて繁殖し、死滅することを毎年繰り返している。

最後に、ウスバキトンボ。なかなか枝などにとまってくれないので、写真をとるのが大変ですが、集団で群れ飛んでいて、ときどきホバリングもしてくれるので、試しにとってみた1枚がこれです。図鑑には「日本全国どこにでもいて、年に3世代と繁殖力もすごい。」というようなことが書いてありますが、ヤゴ(幼虫)は、九州南部から台湾にかけての南西諸島以外では越冬できずに死んでしまうそうです。つまりこのトンボは、5~6月に南からやってきて繁殖し、死滅することを毎年繰り返していることになりますね。今年は、特に多く見かける気がします。 【理科支援員 宮内】